

東京大空襲を語り継ぐつどい

東京大空襲・戦災資料センター 開館 14 周年

日時：2016 年 3 月 6 日(日)

開場 13 時 開会 13 時 30 分

会場：ティアラこうとう(江東公会堂) 大会議室

定員：300 名(当日先着順) 参加費：500 円(高校生以下無料)

講演 米田佐代子さん(女性史研究者/らいてうの家館長)

「想像力としての戦争体験

—いま、「声なきよびかけ」にこたえる—

歌 きたがわ てつ さん(シンガーソングライター)

「日本国憲法前文」ほか



* 体験を語る 西尾静子さん 「東京大空襲は6歳の誕生日だった」

* センターこの1年の活動

* 新作証言映像作品の上映 (証言者：船渡和代さん 旧城東区大島で被災)

* センターで学ぶ子どもたち

* あいさつ 早乙女勝元(東京大空襲・戦災資料センター館長)



〈主催〉東京大空襲を語り継ぐ実行委員会

〈連絡先〉東京大空襲・戦災資料センター

〒136-0073 東京都江東区北砂 1-5-4

TEL:03-5857-5631

FAX:03-5683-3326

講師紹介

1934年東京生まれ。東京都立大学人文学部（史学専攻）卒業後、同大学助手を経て山梨県立女子短期大学教授、2000年3月定年退職。専攻は日本近現代女性史。平塚らいてうを中心に近代日本の女性運動と女性思想を研究。

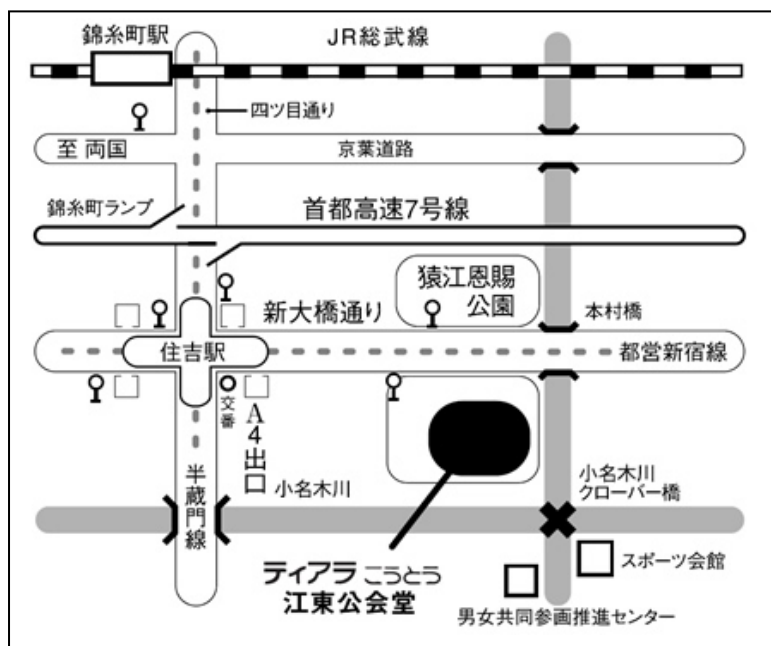
おもな著作に、共編『わたしたちのアジア・太平洋戦争 全3巻』（童心社、2004年）など。

講師のこぼ

わたしの母は6人の子を産み育て、戦争で一人だけ中学生だった息子を少年兵として「戦死」させた経験をもっています。1994年に90歳で亡くなるまで「あの子を死なせたのは母親の自分の責任」と言い、「二度と戦争で子どもを死なせるような母親をつくらせない」と戦争に反対し続けました。わたしは母の思いを引き継いで「安倍首相の靖国神社参拝は違憲」という裁判の原告になっています。

わたしには空襲体験も学童疎開体験もありませんが、そうした「戦争体験」を「想像」することはできます。このつどいのお招きいただいたことを感謝し、「想像力としての戦争体験」を語りたと思います。

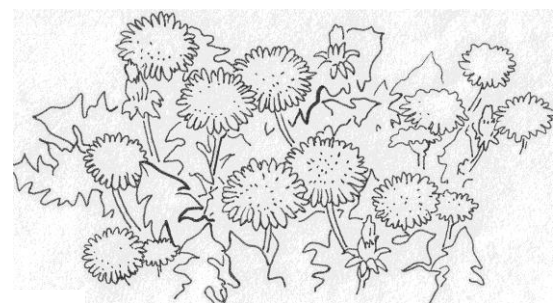
会場案内図



電車利用 地下鉄 都営新宿線
東京メトロ半蔵門線
「住吉」駅下車
A4 出口より徒歩4分

バス利用

1. 東22系統 錦糸町駅～東陽町駅
「住吉駅前」下車徒歩5分
2. 錦11系統 錦糸町駅～築地駅
「住吉駅前」下車徒歩5分
3. 錦28系統 錦糸町駅～東大島駅
「江東公会堂前」下車徒歩1分



東京大空襲・戦災資料センター

1945年（昭和20年）3月10日の未明、約300機のアメリカ軍爆撃機B29による東京下町地区を、目標にした無差別爆撃で、人口過密地帯は火炎地獄と化し、罹災者は100万人をこえて、推定10万人もの尊い命が失われました。3月10日を含め、東京は100回以上の空襲を受けて、市街地の5割を焼失したのです。

1970年から「東京空襲を記録する会」は資料収集を続けてきましたが、1999年東京都は「平和祈念館」建設計画を凍結。そこで、記録する会と財団法人政治経済研究所は、やむにやまれぬ思いで民間募金を呼びかけ、4000人超の方々の協力を得て、2002年3月9日に東京大空襲・戦災資料センターを開館。

2007年3月には再び募金のご協力を得て、増築を実現しました。

民立民営の平和博物館として、多くの会員のご支援を受け、今年開館14周年を迎えます。